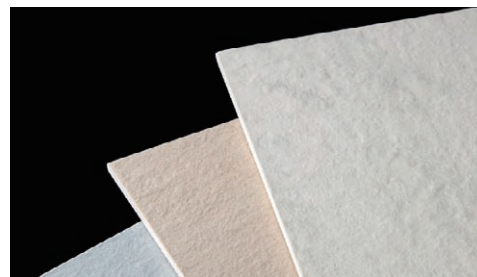


タイルの製造方法のひとつ、乾式タイルと呼ばれる種類をつくる過程をご紹介します。

乾式タイルは、生産効率がよく内装タイルから外装タイルまで幅広くつくられています。印刷も加えると大理石に似た意匠も作ることができます。

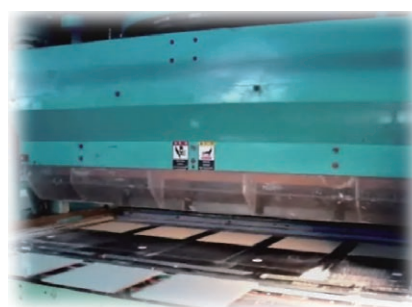


1 「原料をつくる」



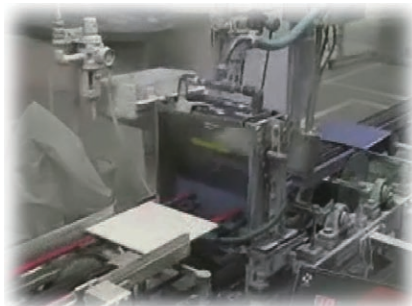
さまざまな土や顔料を混ぜ、スプレードライヤーという装置で粉末状の原料をつくります。

2 「タイルの形をつくる」



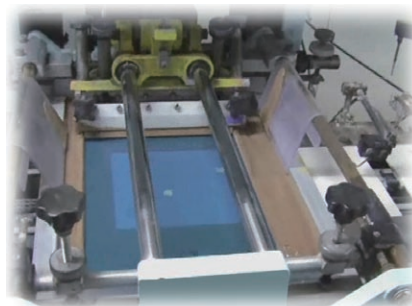
粉末状の原料を金型のプレスに入れて数百トンから1万トンの圧力でタイルの形を作ります。この後、内装壁タイルなどは600℃程度の素焼きをします。

3 「釉薬をかける」



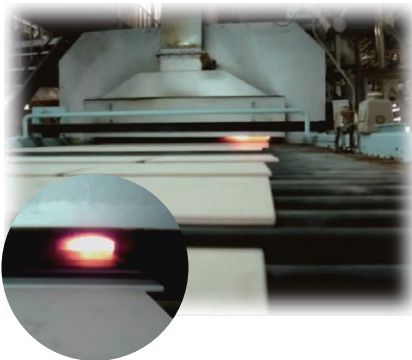
タイルの意匠によって釉薬をかけます。写真は表面に均一にかかるように、滝状に釉薬が流れる中をタイルが通ることによって釉薬がかかる方法です。

4 「柄模様を印刷する」



タイルの意匠によって大理石柄などをスクリーンプリントや回転式の印刷機などでプリントします。普通の紙のインクと異なり、顔料で印刷します。

5 「窯でタイルを焼く」(本焼成)



タイルが耐火セラミックの丸棒の上をベルトコンベアの上にながれて、トンネル状の窯を40～60分かけて通るとタイルが焼きあがります。中央部が最高1300℃近い高温です。

6 「検査をする」



焼きあがったタイルは、JIS規格より厳しいLIXILの品質基準で検査され、焼きものに特有の色バラつきも商品として定めた範囲に選別して梱包されます。